

平成 29 年 6 月 24 日現在

機関番号：33305

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06702

研究課題名(和文)15世紀イングランド中南部在郷ジェントリーの書物文化をめぐる領域横断的研究

研究課題名(英文)An Interdisciplinary Approach to Literary Culture surrounding a
Fifteenth-Century English Gentry, Peter Idley

研究代表者

工藤 義信(Kudo, Yoshinobu)

金沢学院大学・文学部・講師

研究者番号：70757674

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：15世紀の英語による道徳指南文学の性質と、その隆盛を支えた作者・読者層および社会的・文化的環境について理解を深めるべく、Peter Idleyの人物像とその著書'Instructions to his Son'の性質それぞれについて研究を実施し、その関連を見ることを試みた。Peter Idleyの人物像を史料から再検証し、これを読者層の議論へとつなげて、さらに材源との比較から見えてくるInstructions to his Sonの特質との関連性をみることで、Peter Idleyが15世紀の教訓文学をその成立背景とともに理解するための重要な一例であることを示した。

研究成果の概要(英文)：This project analyzes Peter Idley's "Instructions to his Son" in order to further understand the authorship and readership of the fifteenth-century English conduct literature. This project has firstly advanced the studies of Peter Idley by reexamining the controversial documents concerning the author's career as a local officer. Secondly, it discusses the possible relationship between the author's social position and the content of the text. Thirdly, this project analyzes the differences between the text and its sources to point out the uniqueness of the "Instructions to his Son".

研究分野：中世英文学

キーワード：15世紀英文学 教訓文学 作者の人物像 読者の社会階層 材源研究 ピーター・イドリー

1. 研究開始当初の背景

15世紀イングランドの郷紳 Peter Idley による *Instructions to his Son* は、当時隆盛した英語教訓文学の中でも、著者が判明している貴重な事例である。Charlotte D' Evelyn (1935) が *Instructions to his Son* の著者を Oxfordshire と Berkshire にまたがる地域の bailiff を務めていた Peter Idley と同定したことで、この事例は教訓文学の著者の社会階層、さらには、想定読者層について知るための重要なケースとなったはずである。しかし、著者の人物像・想定読者層と作品の性質との関連性を検討するといった、15世紀の教訓文学隆盛の社会的背景の考察に寄与する研究は、その後進展を見ていない。またその前提として、D' Evelyn によって発見されていなかった史料をもとに Peter Idley の新たな人物像を提出しているはずの Matthew Sullivan (1994) の研究の妥当性とその意義について、十分な検証と議論が行われていない。Peter Idley の人物像とテキストの性質の双方について研究を推し進めることで、15世紀の教訓文学の成り立ちをその社会的・文化的条件とともに理解する一助となると期待できる。

2. 研究の目的

Instructions to his Son の教訓文学としての特質と、作品の成立背景としての作者の人物像のそれぞれを新たな視点から検討し、相互の関連性をみていく。そのことによって、Peter Idley が 15 世紀英語教訓文学の隆盛を支えた作者・読者の社会階層と社会的・文化的背景について理解を深めるための重要な一例であることを明らかにする。

3. 研究の方法

著者の人物像についての研究と、作品の教訓文学としての特質についての研究を、それぞれ以下の方法で進めていく。

(1) Peter Idley の人物像について

Peter Idley の伝記に関するこれまでの主要な研究である D' Evelyn (1935) と Sullivan (1994) それぞれが論拠とする史料を調査し、Idley の職務経歴の再検討を行う。とくに、双方の記述が互いに相容れない点が 2 か所あるため、史料に立ち戻って、どちらの記述が正しいのか確かめる。全体の結果を踏まえて、Peter Idley の職務の内容や社会的立場と作品の内容との関連性について考察する。

(2) 作品の特質について

材源とされているテキストと作品との比較を行うことで、Idley の作品が教訓文学としてどのような点で特異であるかを明らかにする。またその特質の意義を、書物生産の状況や、新たな読者層の書物に対する要請など、15世紀の教訓文学を取り巻く社会的・文化的条件とともに考察する。

4. 研究成果

(1) Peter Idley の人物像について

まず、Peter Idley の伝記的事実について D' Evelyn の論拠とするすべての史料を閲覧調査し、該当箇所を撮影しデータとして保存した。一方 Sullivan の論拠とする文献の大部分は、もとの史料ではなく抄録であることがわかった。したがって、Sullivan の記述内容を検証するためには、もとの史料をたどって確かめる必要があることが明確になった。

すべての史料の内容を検証するには当初の計画よりもはるかに多くの時間を要することが明らかになったため、今回の研究期間では、D' Evelyn と Sullivan の記述内容が相容れない 2 つの点 Controller of King's Works と、Bailiff の在職期間 に絞って検討することとした。前者については、Sullivan 自身が論拠としている抄録の内容を誤解している可能性が高いことが浮き彫りになった。後者については、互いに矛盾する内容をもつ複数の史料の存在をどのように解釈すべきか未だ検討の余地があり、今後の追究課題として残された。

しかし、Sullivan が新たに提示した他の事項は、少なくとも抄録資料の記述とは合致することが確認された。これらの事項が正しいとすれば、Sullivan の指摘する通り、Idley は D' Evelyn が考えるよりも社会的地位の高い人物だということになる。そして Sullivan の論じるように、Idley が彼と同等の社会的地位をもつ仲間たちにこの作品を書いたのだとすると、この作品が書かれ読まれた社会階層は全体として、D' Evelyn が考えていたものとは大きく異なるものとなる。ただし、著者の社会階層と想定される読者の社会階層が異なる可能性も排除できない。こうした作品の制作と受容にかかわる文脈としての著者の社会的地位の意義について考察し、その重要性を指摘した。以上の研究成果を、2016年6月の国内学会で発表した。

また史料調査から、Idley が、bailiff としての管轄地域の訴訟にあらゆる立場で関わっていたことが浮き彫りになった。こうした社会的立場と、作品の材源の選択、題材の選択、それらの変更の仕方との間に関連性が見出せる可能性があることを指摘し、その研究成果を 2016年7月の国際学会で発表した。

(2) 作品の特質について

Instructions to his Son は二部構成の作品であり、それぞれ材源とするテキストも異なる。第一部は日常的な場面におけるあるべき振る舞いについて説いたもので、道徳指南文学 (conduct literature) のジャンルに属するものと捉えられる。第二部は使徒信条や大罪など、キリスト教信仰に深くかかわる教を説いており、Robert Mannyng of Brunne の *Handlyng Synne* を材源としている。より世俗的な文脈における教訓文学の成立背景を探

ることを主たるねらいとする本研究は、第一部に分析対象を絞り、その主要な材源のひとつである Albertanus of Brescia 著 *Liber consolationis et consilii* との比較を通じて、*Instructions to his Son* の特質について考察した。両作品の比較から、登場人物同士の対話と読者への命令形の連続という形式上の違いが、読者に伝えている教への性質とその構造にどのように関係しているかを吟味した。その結果、*Liber consolationis et consilii* が、内省のプロセスを重視した、徳の概念的理解を促す構造となっているのに対し、*Instructions to his Son* 第一部は実践を重視した具体的な教訓の記憶を促す構造となっていることが明らかになった。この Idley のテキストの教訓文学としての特質の意義について、中流社会層を中心とした当時の新しい読者層の書物への要請との関わりを踏まえて考察し、2017年3月の国際学会で発表した。

(3) 成果の学術的インパクトと今後の展望

Peter Idley の人物像を史料から再検証し、これを読者層の議論へとつなげて、さらに材源との比較という基礎的な分析から見えてくる *Instructions to his Son* の特質との関連性をみることを試みた本研究は、15世紀の英語教訓文学の性質を、それを取り巻く作者像・読者層・書物生産事情とともに理解するために、Peter Idley という一例が目印に値することを示す役割を果たしたといえる。

Peter Idley の伝記に関わる史料の再検証の試みは、Sullivan 以後ほとんど進展していない Idley の人物像についての研究の新たな展開を方向付け、その重要性を喚起させることができた。

また、著者や想定される読者の社会階層を踏まえた作品解釈も、今後、同時代に成立した他の道徳指南文学や類似の教訓文学の性質と成立背景との関係を考えていくうえで、Peter Idley がひとつの重要な比較対象となりうることを示すことができたといえる。

さらに、作品とその材源との比較研究によって、15世紀の道徳指南文学が関連ジャンルにいかにも多くを負っているが、なおかついかに独自の性質を生み出しているかを知るためのひとつの例を具体的に示すことができた。以上の研究成果は、国内外の学会で発表した。今後論文の形にまとめて公表していくことを計画している。

一方で、人物研究と作品研究を同時に進めて総合を試みた本研究は、それぞれの分野において課題を今後へ残すこととなった。人物研究においては、史料の再検証の作業をさらに進め、完成させる必要がある。また、Idley の bailiff としての活動と作品の内容との関連性についての議論も、現存史料が Idley の活動について何を示唆するかを、同時期の類似の事例と比較しながらより精緻に分析する必要がある。そうすることで今後、著者・

読者層と作品内容の関わりについて、Sullivan (1990) よりもより詳細な議論が可能になるであろう。材源との比較研究も、まずは第一部にとってのもうひとつの主要な材源である *Amore Dei et proximi* との比較を進めていきたい。また、第二部とその材源との比較も行うことで、一見して異なるジャンルに属する第一部と第二部に共通点を見出せないか、考えてみることもできるであろう。

Instructions to his Son はもともと二部構成の計画で制作されたのか、それとも第二部は別のもので作られたのかという問題は、作品の成立過程に関わる重要な問題である。また、とくに第二部の制作と伝播の過程については、現存写本を手掛かりに検討してみる価値があると考えられる。本研究を進めていく過程で、Peter Idley に関する多くの新たな課題も浮かび上がってきたが、そのひとつが、現存写本それぞれの制作事情と写本相互の関係性の問題である。次期の研究課題(課題番号 17K13416)では、その双方をみる研究を進めていく計画である。

引用文献

Charlotte D' Evelyn, ed., *Peter Idley's Instructions to his Son*, The Modern Language Association of America Monograph Series, 6 (Boston: D. C. Heath, 1935)

Sullivan, Matthew, 'Biographical Notes on Robert Mannyng of Brunne and Peter Idley, the Adaptor of Robert Mannyng's Handlyng Synne', *Notes and Queries*, 41 (1994), 302-304

Sullivan, Matthew Thomas, 'The Original and Subsequent Audiences of the Manuel des Péchés and its Middle English Descendants' (unpublished PhD thesis, University of Oxford, 1990)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 4 件)

工藤義信, 15世紀の英語教訓文学 Peter Idley, *Instructions to his Son*, 日本中世英語英文学会第31回全国大会、2015年12月5日-6日、慶應義塾大学(東京都・港区) ポスター発表

工藤義信, Peter Idley の職務経歴 15世紀イングランドの英語教訓文学を担った社会階層、西洋中世学会第8回大会、2016年6月11日、東北大学(宮城県・仙台市)

Yoshinobu Kudo, The Importance of

Peter Idley ' s Social Career to his Text, *Instructions to his Son*, Leeds International Medieval Congress 2016, 5 July 2016, Leeds (United Kingdom)

Yoshinobu Kudo, Peter Idley ' s *Instructions to his Son*: A Unique English Reception of Albertanus ' Treatises, The XI Cardiff Conference on the Theory and Practice of Translation in the Middle Ages, 17 March 2017, Vienna (Austria)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

工藤 義信 (KUDO, Yoshinobu)

金沢学院大学・文学部文学科・講師

研究者番号 : 70757674